

## ■ 分野別科目

## 人間と社会

### 地域デザイン論

前期・選択必修・2単位

Regional Design and Research

担当教員 山之内誠・小浦久子

#### 到達目標（目的含む）

地図や地誌類、統計データ等にもとづく地域情報の分析手法を学び、地域空間の成り立ちを総合的に理解する力をつける。

#### 授業の概要

グローバル化が進む一方で、空間の地域性を継承強化する持続可能な地域のあり方が問われている。そのためには、デザインやプランニングのよりどころとして、自然環境、歴史、生活、文化から地域空間の成り立ちを把握し分析するとともに、その固有性（地域らしさ）を読み解く必要がある。ここでは、神戸市内の都市部や農村集落など、スケールや成立背景の異なるフィールドを設定し、講義と実践を通して、地域の特徴を読み解く視点と手法を学ぶ。

#### 授業計画

- 1：オリエンテーション
- 2：地域の歴史環境：地域の歴史資源のみかた
- 3：地域の空間構成：地域空間の見方・よみ方
- 4：地域空間1：地図のスケールと情報類型
- 5：地域空間1実践：建物スケールから地域スケールまでの空間表現を分析する
- 6：地域空間2：基礎データの使い方（国勢調査・各種統計データ、市町村計画など）
- 7：地域空間2実践：地図を使って地域データを空間化する
- 8：地域の歴史1：歴史の基礎資料の読み方（地誌、郷土資料、絵図・地図など）
- 9：地域の歴史1実践：地域の歴史環境を市史、地誌等をつかって表現する
- 10：地域の歴史2：建築物のみかた（町家の変遷、近代建築等、農家型民家、寺社建築など）
- 11：地域の歴史2実践：建築物の歴史のとらえ方を実践する
- 12：フィールドワーク1：（湊川・長田地区）
- 13：フィールドワーク2：（湊川・長田地区）
- 14：方法論のケーススタディ：歴史の調べ方・地域のみかたで学んだ手法を適用してみる
- 15：方法論のケーススタディ：フィールドワーク対象地区の地域性を表現する

#### 授業時間外学習

毎回の授業内容を各自復習しておくとともに、演習の回の成果物は持ち帰って次の授業時まで完成させ、提出すること

#### 評価方法

参加状況（出席、議論への参加）および演習課題の取り組み状況を総合的に評価

#### 使用テキスト

西村幸夫・野澤康編「まちの見方・調べ方 ―地域づくりのための調査法入門―」朝倉書店

#### 実習費

見学の際の交通費等は、各自で負担することを原則とする

### 生活文化論

後期・選択必修・2単位

Cultural Study of Life

担当教員 長野真紀・今村文彦

#### 到達目標（目的含む）

現代の多様化した生活環境への意識や思考力を高めていくことを目的に、環境と地域生活の視点から、人間生活を包括する環境と物の見方や生活行動、コミュニケーションの取り方を含めた文化の形成について考察する。

#### 授業の概要

人々が暮らしを営む地域・風土・環境には、人間の歴史である生活の歴史が蓄積し、生活者を取りまくその時代の社会や信仰、衣食住が深く関係している。また、各地域の多様な芸術文化、伝統文化、生活文化は、生活様式や社会構造の変容を受けながらも、場所性や民族的特性を保ち現在まで連綿と受け継がれてきた。本講義では、日々の生活の中にある身近なモノから自然まで、環境と文化の文脈から暮らしのかたちを読み解いていく。

#### 授業計画

- 1：暮らしのデザイン文化① 住まいと居住環境
- 2：暮らしのデザイン文化② 生活様式と空間認識
- 3：暮らしのデザイン文化③ 衣食住に見る基層文化
- 4：文化と民俗学 宮本常一 民具学
- 5：文化と建築学 吉阪隆正 有形学
- 6：文化と生活学 今和次郎 考現学
- 7：調査の手法① 観察・記録・スケッチ
- 8：調査の手法② 計測・集計・図化
- 9：地域・生活文化 現地調査① 神戸 旧居留地
- 10：地域・生活文化 現地調査② 神戸 旧居留地
- 11：地域・生活文化 現地調査③ 明石 漁村集落
- 12：地域・生活文化 現地調査④ 明石 漁村集落
- 13：スタジオワーク① 現地調査の分析
- 14：スタジオワーク② 現地調査の考察
- 15：プレゼンテーション 研究発表・最終講評会

#### 使用テキスト

授業中に資料配布

#### 各自準備物

現地調査において、デジカメ、調査ノート、コンベックスなど

#### 実習費

現地調査実施時には、交通費等の負担が生じる場合がある

## 比較芸術論

後期・選択必修・2単位

Comparative Study on Arts and Design

担当教員 尹智博・藤山哲朗

### 到達目標（目的含む）

アートやデザインを単一の専門領域だけでなく多視点により読み解き、形として構築する力を身につけることを目的とし、アートやデザインを複数領域の視点から読み解く力をつけます。

### 授業の概要

芸術の本質を見出す試みとして、複数領域の芸術の特徴を比較検証することが行われていた。古代の建築書の中には音楽理論が記され、中世では「絵画と文学」、近代では「絵画と音楽」や「色彩と音響」等、各領域の特徴を比較検証した領域横断研究や作品制作が行われていた。そして近年では他領域の芸術の特徴を「新しい制作手法」として転用したアートやデザインの作品が多く制作される様になった。本科目では、そうした複数領域の芸術を横断し比較された歴史や概念、様々な作品群の事例、制作手法等について講義を行う。

### 授業計画

- 1：講義 比較芸術とは（尹・藤山）
- 2：講義 音を見る（尹）
- 3：講義 音楽とデザイン（尹）
- 4：講義 音楽とアート（尹）
- 5：講義 文学とデザイン（藤山）
- 6：講義 ダンスとデザイン（藤山）
- 7：講義 映画と建築（藤山）
- 8：講義 ファッションと建築（藤山）
- 9：研究制作 領域横断型の作品制作 - 課題説明（尹・藤山）
- 10：研究制作 領域横断型の作品制作 - エスキス（尹・藤山）
- 11：研究制作 領域横断型の作品制作 - 制作1（尹・藤山）
- 12：研究制作 領域横断型の作品制作 - 中間発表（尹・藤山）
- 13：研究制作 領域横断型の作品制作 - 制作2（尹・藤山）
- 14：研究制作 領域横断型の作品制作 - 制作3（尹・藤山）
- 15：合評（尹・藤山）

### 授業時間外学習

各回の復習を行うこと

### 評価方法

受講態度、成果物等を総合的に判断する

### 使用テキスト

各回配布

## 人間と社会特論

前期・選択必修・2単位

Advanced Study on Human and Society

担当教員 見寺貞子・大学院担当教員

### 到達目標（目的含む）

デザインの歴史と社会的な役割を理解する。また、デザインの実践を積み重ねてきた専門家の多様な視点を学び、高度なデザインの発想方法を理解する。

### 授業の概要

人間と社会のシステムの中でデザインが果たしてきた役割と幅広いフィールドを理解し、デザインの歴史と社会的な役割を理解し、多様なデザイン分野で先駆的な役割を果たしてきた専門家を招き、それぞれのデザインの魅力に触れるとともに、特徴のある視点を理解する。

### 授業計画

- 1：オリエンテーション
- 2：近現代日本の造形
- 3：近現代日本の造形
- 4：近現代日本の造形
- 5：近現代日本の造形
- 6：近現代日本の造形
- 7：ファッションデザイン
- 8：ファッションデザイン
- 9：ファッションデザイン
- 10：広告デザイン
- 11：広告デザイン
- 12：広告デザイン
- 13：広告デザイン
- 14：広告デザイン
- 15：総括

### 授業時間外学習

各講師は、各分野において日本を代表する専門家の一人であり、講師の著作に触れておくことが望ましい。また、自分の作品等を持参して講評を受けることも可能である。

### 評価方法

レポートを評価する。

### 使用テキスト

各講師の著書など

### 各自準備物

授業中に指示する。

### その他

自分の作品を持参して、各講師の講評を受けることも可能である。